

「塩竈らしい100の暮らし」一覧表

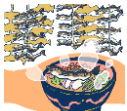
No.	分野NO.	分野名	暮らし	暮らしの概要	取組	関連事業名 ※該当する場合のみ	部課名
1	1	子ども	運動部の学生が坂道でトレーニングする暮らし 	夕方になると、急な坂道を利用してトレーニングをする学生たちの仲間を励ます声が続く。毎年この町からは、脚力を武器に全国で活躍する選手が現れる。	坂道で部活 ドライバーのマナーの改善	交通安全対策事業	市民生活部市民課
2	1	子ども	町内会の盆踊りで子どもたちが跳ね躍る暮らし 	各町内会では住民の手による夏祭りが毎年開催される。当日はお神輿や盆踊りに子供たちが元気に参加するので、運営にあたる親世代や祖父母世代にも活気が生まれる。	祭りやイベントへの参加 町内会・自治会の活性化 子育て世代の定住促進	ジュニアリーダー育成事業	教育部生涯学習課
3	1	子ども	放課後、子供たちの笑い声が響く暮らし 	放課後になると近所の公園や空き地に子供たちが集まり、子供だけの世界をつくって遊んでいる。近くを通る住民やお巡りさんが子供たちの様子を見守る。	公園の整備 交番との連携	①防犯対策事業 ②公園施設長寿命化計画 策定事業	①市民生活部市民課 ②産業建設部土木課
4	1	子ども	校庭で風揚げをする暮らし 	正月、学校の校庭には風揚げの子供たちの姿が見られる。腕に覚えのある近所の大人たちが、風の作り方や揚げ方のコツを教えながら子供たちの遊びを見守っている。	風を揚げる 校庭の安全確保	①第二小学校他3校遊具修繕 (小学校4校、遊具基礎の露出 改善) ②グラウンド砂敷き均し(小学校2校、中学校3校)	教育部教育総務課
5	1	子ども	読み聞かせて絵本に親しむ暮らし 	小さい子供が公民館や図書館に行くと、スタッフや保護者、ボランティアの中高生などが絵本の読み聞かせをしてくれる。塩竈の民話をもとにした紙芝居を鑑賞できる日もある。	図書館で司書と話す 学生ボランティアの育成	市民図書館運営事業	教育部生涯学習課
6	1	子ども	地区の新年会や忘年会で子供たちと歌う暮らし 	新年会、忘年会、敬老会など、町内会のイベントで住民らの交流が深まっている。毎回、地域の子供たちの合唱は大人たちの一番の楽しみ。大人たちも一緒に歌う。	町内会活動に子供たちの活躍の場を設ける		

7	1	子ども	子供たちが町の未来を話し合う暮らし 	地域や学校などで、町の現状や未来について子供たちが意見を言う機会がある。子供たちは意見を言うために町のことを学び、大人は子供たちの考えを知ることができる。	町のことを知る 郷土学習の推進 意見を交わす場の設定	①小中学校総合的学習推進事業 ②小学校社会科副読本関係事業 ③学校向け出前講座	①教育部学校教育課 ②教育部学校教育課 ③教育部生涯学習課
8	1	子ども	体験を通じて塩竈の良さを知る暮らし 	子供たちが塩竈の文化、産業、職業などを体験を通して学べる施設がある。さまざまな職業・立場の人が施設の運営に関わり、施設内外での職業・世代を超えた交流が生まれている。	いろいろな職業を体験する 職業体験施設の設置	①地域のおしごと体験事業 ②しおがま「何でも」体感団	①福祉子ども未来部子ども未来課 ②教育部生涯学習課
9	1	子ども	地元で働きながら子育てをする暮らし 	地域には十分な保育定員が用意されている。市内や近隣にはさまざまな職種があり、親たちは働きながら子育てしやすい。通勤に長い時間を奪われないので子どもとゆっくり過ごす時間も確保できる。	地元で働き、子育てをする 地元で保育職を目指す 保育環境の整備	①藤倉児童館及び放課後児童クラブ指定管理運営事業 ②就学前教育・保育施設等整備事業	①福祉子ども未来部子ども未来課 ②福祉子ども未来部保育課
10	1	子ども	勉強を口実に子どもたちが集まる暮らし 	放課後や休日、集会所や児童館に子どもたちが集まって教科書を広げている。教師経験のある住民や近所の大学生がボランティアで勉強を教えているが、いつも友人とひそひそ話をしている子もいる。	子どもたちが世代を超えて集まる 子どもたちが集まれる場をつくる	①アフタースクール事業 ②放課後子供教室	①福祉子ども未来部子ども未来課 ②教育部生涯学習課
11	1	子ども	図書館の学習スペースで集中して勉強する暮らし 	図書館の自習コーナーやコミュニティセンターの学習室など、中高生が勉強に集中できる場所がある。努力して目標を達成した先輩の姿を見た学生らは「勉強は自分でするもの」ということを学ぶ。	自習コーナーで集中して勉強する 中高生が勉強できる場をつくる	市民図書館運営事業	教育部生涯学習課
12	1	子ども	子どもたちの通学を地域で見守る暮らし 	毎朝夕、通学中の子どもたちと地域住民との挨拶の声が聞こえる。通学路を走る車は常に子どもたちに注意して徐行している。夕方、家々の門灯や玄関灯は早めに点灯される。	地域の子を地域で見守る ドライバーのマナー改善 子育て世代の定住促進 自動車交通量を減らす	①子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業 ②交通安全対策事業 ③スクールガード・リーダー配置事業	①総務部政策課 ②市民生活部市民課 ③教育部学校教育課
13	1	子ども	給食で地元の食材を日常的に味わう暮らし 	各校で作られる給食には塩竈産の魚介や野菜、塩・味噌・醤油などがふんだんに使われ、郷土学習の生きた教材になっている。生産者にとっては地域の子どもたちを育む営みが生きがいとなる。	給食に地元食材を使う 自校給食の維持 食材の地域内流通の仕組みを検討	①かまぼこ等の水産練り製品を給食で提供 ②学校給食版「みなと塩竈海保カレー」の提供	教育部教育総務課

14	1	子ども	子どもたちが大人の知らない世界をもつ暮らし 	近所の子どもたちが、子どもだけの秘密の国を作って遊んでいる。小さい子をみんなで守ることは暗黙の掟。大人たちは子どもたちの世界を邪魔しないようにさりげなく見守っている。	子どもたちだけで遊ぶ 大人に見つからない		
15	2	福祉	祖父母が孫に手を引かれて坂を登る暮らし 	小さな子が祖父母の手を引いて歩く。足腰自慢の祖父母も「孫にはもう負けるね」と笑う。坂の途中の茶店に孫と寄るのも楽しみ。坂を走る車は歩行者優先を徹底している。	坂の途中にベンチを設置 ドライバーのマナーの改善 高齢者の健康相談でウォーキング指導	交通安全対策事業	市民生活部市民課
16	2	福祉	家族で毎日 「しおがま100歳体操」を続ける暮らし 	市民有志が専門家の助言を受け、子供も高齢者も一緒に取り組める楽しい体操を考案した。合理的に健康増進を図れるだけでなく、家族で取り組むことで互いの健康観察にも役立つ。	家族や仲間と体操する しおがま体操の考案、制定	しおがまトロっとエクササイズ（一般介護予防事業）	福祉子ども未来部高齢福祉課
17	2	福祉	健康についての勉強会で情報交換する暮らし 	近所のコミュニティスペースで定期的に健康や病気についての勉強会が開かれている。専門家による助言や参加者どうしの情報交換を通して、住民の保健意識は向上した。	健康について学ぶ 勉強会の開催 情報交換する	まちづくり・しおがま出前講座	教育部生涯学習課
18	2	福祉	まちを歩く高齢者を地域で見守る暮らし 	地域を歩く高齢者を近所の人が見守っている。危険がないように声をかけ、必要に応じて家族や施設に連絡する。近くの交番の巡査も地域の人の様子を把握し、頻繁に見回っている。	障害者、高齢者の安全を見守る 警察と地域の連携、情報共有	防犯対策事業	市民生活部市民課
19	2	福祉	神社や公園でヨガや太極拳を楽しむ暮らし 	商店街にある神社の境内や住宅地の公園で太極拳の稽古をする。年齢も性別も体格もさまざまな参加者が、ゆったりした動きの中で自分の心身と向き合う。別の日にはヨガ愛好者のグループが活動している。	太極拳を楽しむ 互いのペースを尊重する		
20	2	福祉	働く人の健康を大事にする職場で働く暮らし 	多くの事業者の間に、従業員が長く元気に働けることが自社の利益につながるという意識が浸透している。そのため従業員の体にかかる負担を軽減する職場環境が整えられている。	人体への負担の少ない職場環境を整える 職場環境改善の啓蒙		

21	2	福祉	障害のある人がゆっくり安全に道を歩く暮らし 	市内は自動車の往来が少なく、段差のない歩道や点字ブロックや音声案内も整備されており、高齢者や障害のある人が歩きやすい。市民には、困っている人をサポートする意識が根づいている。	障害があっても出歩く 市内環境のユニバーサルデザイン化 交通機関の充実による脱自家用車化		
22	2	福祉	シニア世代が短時間のアルバイトで小遣いを稼ぐ暮らし 	体に負担の少ない短時間の業務をシニア世代に割り振るしくみがあり、多くの人が就業して社会参加しながら小遣いを稼ぐ。生活にハリが出て元気な高齢者が増え、勤労世代の負担が軽くなる。	短時間アルバイトで小遣いを稼ぐ 希望者に仕事を割り振るシステムの確立	①介護支援ボランティア活動事業 ②塩釜市シルバー人材センター運営助成事業	①②福祉子ども未来部高齢福祉課
23	2	福祉	近くにかかりつけの町医者がある暮らし 	子どもが急に熱を出したので近くの医院に駆け込んだ。生まれた時から診てもらっているので安心して受診できた。祖父母は定期的な往診を受けていて、総合病院への入院を手配してもらったこともある。	かかりつけ医を受診する 往診する 町医者が往診できる地域医療体制の確立		
24	3	生活	町の空き家を生かす暮らし 	街中に残る古い住居はきれいにリフォームされ、子育て世代の夫婦が住んでいる。近くの商店におつかに走る子供たちの姿が日常的に見られる。	空き家の把握・改修 街並みのルールづくり・運用 定住促進策の強化	空家等対策計画策定事業	総務部政策課
25	3	生活	おいしい水がある暮らし 	水道から流れる良質な水を使って、自宅でおいしい食事。乾いた喉を水道水で潤す市民が多く、清涼飲料水が売れない町になった。	水道水の水質維持 水道行政の適切な運営	①第7次配水管整備事業 ②第2次老朽管更新事業	上下水道部上水道課
26	3	生活	海が近くにある暮らし 	海辺にはいつも、犬と散歩する人や釣りを楽しむ人の姿が見られる。一度は汚れた海の水も年々きれいになってきた。湾内に形成された干潟では子どもたちがカニやゴカイを見つけて歓声をあげる。	海浜公園や遊歩道の整備 一般の人が海に出やすい港湾管理 海辺でゴミ拾い 水質維持のための研究、指導		
27	3	生活	夏にカブトムシを見つける暮らし 	夏、丘の上の自然公園ではカブトムシを見つけた子供たちが歓声をあげる。木々が茂る場所は市内に多くあり、時には住宅地の公園でカブトムシが見られることも。	カブトムシを取りに行く 多様な自然環境の創出 自然公園の整備		

28	3	生活	海が見える公園でバーベキューを楽しむ暮らし 	海が見える公園で、家族でバーベキュー。お腹がいっぱいになったら、芝生を走り回る子供たちを見守りながら、パパとママはゆっくりと時間を過ごす。	バーベキュー広場のある公園の整備 管理システムの確立		
29	3	生活	「買出しツアー」で 商店街に買い物に行く暮らし 	週に2～3回、近隣住民どうしが1台の車に乗り込んで商店街に買い物に行く。日常の買い物や用事を済ませられるので、運転免許を返納する高齢者が多くなった。	商店街で買い物をする 買い物ツアーの公共サービス化 運転免許を返納する	交通安全対策事業（高齢ドライバー運転免許証自主返納推進事業）	市民生活部市民課
30	3	生活	防災訓練で地域住民の状況を共有する暮らし 	年に2回、町内会単位で防災訓練が開催され、ほとんどの住民が参加する。訓練後にはみんなで鍋や豚汁を食べながら、災害時に支援が必要な住民の情報などを共有する。	防災訓練を実施する 家族や近隣住民の様子を話し合う 訓練後に鍋や豚汁を食べる	塩竈市総合防災訓練	総務部危機管理課
31	3	生活	コミュニティFMで地域情報を得る暮らし 	コミュニティFMでは日々、生活に役立つ地域情報が流れている。投稿やリクエストを通じたラジオ上での交流もさかん。災害時の情報源としても市民の信頼が厚い。インターネット経由で聴く人も多い。	ラジオを聞く 災害時の各メディアの役割の確認 インターネットで聴く方法の周知 ラジオ番組に投稿する ラジオを配布する	①防災啓蒙事業 ②地域放送活用事業	①総務部危機管理課 ②総務部秘書広報課
32	3	生活	地図や地名の歴史を学び災害に備える暮らし 	古地図に描かれた古い海岸線や地名に残るヒントをもとに、地区ごとの災害リスクについて学ぶ。知見は「津波防災センター」に集約されるとともに市民に共有され、地域社会の防災力が高まった。	勉強会を開催する 地域の災害リスクを知る 津波防災センターの活用	①津波防災センター運営事業 ②しおがま「何でも」体感団（防災学習）	①総務部危機管理課 ②教育部生涯学習課
33	3	生活	丘の上の空き家を 改装したカフェで談笑する暮らし 	海が見える丘の上の空き家を地域のみんなで改装してカフェを作った。コーヒーやケーキのほかお茶や和菓子もあり、日々、さまざまな世代の住民が坂を登って集まってきては談笑している。	坂を登ってカフェに行く 空き家を活用してカフェを作る 公益的な要素をもつ飲食店への補助		
34	3	生活	空き店舗で麻雀卓を囲んで笑い合う暮らし 	「シャッター通りからウェルネスの聖地へ」を合言葉に空き店舗の活用が進められた。麻雀、囲碁、将棋などを楽しめるスペースもでき、商店街がにぎやかになるとともに新たな雇用も生まれた。	麻雀をしに街に出る 空き店舗の活用 娯楽スペースの開設、運営		

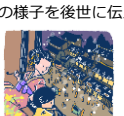
35	3	生活	徒歩とバスと電車で移動する暮らし 	バスの本数が多く、市内や近隣市町への用事はバスと徒歩で済ませられる。市内に4つある駅は、市外へ出かける市民の足としてよく利用されている。自家用車を使う人が減って道が安全になった。	自家用車の使用をやめる バス路線の充実、本数の増加 駅周辺の環境整備 高齢者のバス利用への支援	①総合交通体系整備事業 ②バス運行補助金助成事業	総務部政策課
36	4	産業	近所に行きつけの店がある暮らし 	地域には個人経営のさまざまな店があるので、たいていの買い物は徒歩圏内で済ませている。店主も客も同じ地域の住民。毎日の買い物の中で信頼関係が生まれている。	地元商店での買い物 地元ニーズの把握 小規模店舗の支援	中心市街地商業活性化事業	産業建設部商工観光課
37	4	産業	漁師や農家・林業家の仕事に肌で触れる暮らし 	市内や近隣市町の漁師、農家、林業家の協力を得て、漁業・農林業体験をする。近隣市町との連携によって、子供たちは地域の産業について幅広く知ることができる。	農林漁業を体験する 近隣市町との連携 一次産業の振興		
38	4	産業	自分で釣ったハゼで正月の雑煮を作る暮らし 	正月の雑煮のダシに「焼きハゼ」を使う家庭が多い。秋になると、各家庭ではハゼを焼いて干す光景が見られる。ハゼは自分で釣る人が多く、たくさん釣れたら近所におすそ分けする。	ハゼを釣って焼いて干す ハゼ出汁の雑煮の普及啓発 ハゼ出汁の雑煮を食べる 釣りができるエリアを拡大・整備	しおがま 〓何でも〓体感団（船釣り体験）	教育部生涯学習課
39	4	産業	魚市場で干物作りを体験する暮らし 	魚市場の調理室で定期的に開催される市民向け料理教室で、市内の加工業者が講師となって旬の魚介を使った料理を作る。魚市場職員の案内でセリを見学し、流通についても学ぶ。	魚市場の料理教室に参加する 市場の魚食普及策の検討、強化 市場と業者の協力体制の強化	各種料理教室	産業建設部水産振興課
40	4	産業	桜味のスイーツを味わう暮らし 	市内の菓子店が共同開発した桜味のスイーツが塩竈の新名物となり、市民にとって春を待つ楽しみが一つ増えた。市内でしか買えないため、市外に住む友人に自慢げに送るのも楽しみ。	市内でスイーツを買って食べる、送る 市内菓子店の協力関係の構築 名物スイーツの開発		
41	4	産業	海の恵みに感謝して大漁旗を掲げる暮らし 	1年に1回、海の恵みに感謝する祭りが開かれる。港や市場には大漁旗が翻り、市民は海産物をお腹いっぱい食べる。地元酒蔵による振る舞い酒を楽しみにしている人も多い。	お祭りを企画・運営する 酒蔵による振る舞い酒 日頃から海産物を食べる	①塩釜魚市場どっと祭・魚市場開放まつり ②観光プロモーション事業	①産業建設部水産振興課 ②産業建設部商工観光課

42	4	産業	地元産かまぼこを使った「塩電おでん」を楽しむ暮らし 	市内の食品加工業者が知恵を出し合って完成した「塩電おでん」が、地元の味として定着した。市内の飲食店で「おでん」を注文すると「塩電おでん」が出てくるのが普通。	「塩電おでん」の完成 食品加工業者の協力関係の構築 「塩電おでん」を食べる		
43	4	産業	いいことがあると寿司で祝う暮らし 	誕生会や結婚記念日など、お祝い事で寿司を食べる家庭が多い。寿司店はお祝い用の華やかな盛り付けを工夫している。地域の祭りでは長い鉄火巻きをみんなで作って楽しむ。	祝い事で寿司を食べる 寿司メニューの検討	観光プロモーション事業	産業建設部商工観光課
44	4	産業	塩電のソウルフードを伝える暮らし 	塩電汁や焼きガキ、地元産かまぼこを使った塩電おでんなどが市民のソウルフードとして定着した。家庭でも地域の集まりでも食べる機会が多く、大人も子どもも大喜びする。	塩電の味を家庭で食べる 塩電の食文化を整理	さかな丸ごと食育	産業建設部水産振興課
45	4	産業	毎週開かれる市に手作り品を持ち寄る暮らし 	地域の広場でフリーマーケット形式の市が毎週開かれ、住民らが手作りの食品や小物などを販売する。物々交換での取引もさかん。楽器演奏の指導などサービスを売る人もいる。	売れるものを考える 市の開催		
46	4	産業	地元産食材を使った郷土料理が食卓に並び暮らし 	日々の食卓には地場産の魚介や野菜などを使った料理が並び、老舗酒蔵の地酒で晩酌をする。ご近所の集まりで「晩のおかず」を持ち寄る機会が多く、人気のおかずが郷土料理として定着した。	地場産の食材を使って料理する 地域の一次産業の振興 晩のおかずを持ち寄る	親子deキッチン	教育部生涯学習課
47	4	産業	塩電で水揚げされた魚介を仲卸市場で選ぶ暮らし 	魚市場にはマグロ以外にもさまざまな魚介が揚がる。仲卸市場にはそれらの魚介のほか青果、精肉などが並び。仲卸市場での買い物は醍醐味は、食材の旬やおいしい食べ方を店の人に聞けること。	仲卸市場に買い出しに行く 仲卸市場内の商店	塩釜魚市場どっと祭 市場 de マルシェ 市場 de B B Q 等	産業建設部水産振興課
48	4	産業	人々が行き交う駅前で購入物や食事を楽しむ暮らし 	駅前には地元産品を扱う店や塩電の食材を使った食べ物を提供する店が並び、いつも多くの人が行き交う。店と客とのコミュニケーションの中で新たな商品や料理が生まれることも多い。	鉄道を利用し、駅周辺を歩く 地元産品を買う、食べる 駅前商店街の設計、整備	中心市街地商業活性化事業	産業建設部商工観光課

49	4	産業	季節の地酒と肴を楽しむ暮らし 	市内の酒蔵が季節ごとに発売する酒は塩竈の風物詩のひとつとなり、毎年、辛党の市民が待ちわびる。飲食店では、地元の食材を使い、地酒に合わせた季節の料理を提供している。	地酒を買って飲む 地酒に合う料理の研究	①観光プロモーション事業 ②物産協会助成事業	産業建設部商工観光課
50	4	産業	勤めながら小商いを始める暮らし 	会社に勤めながら、農林漁業や作家活動、加工食品製造など趣味や特技を生かせる分野で「小商い」を始めて副収入を得る。副業が軌道に乗り、会社を辞めて本業にする人も多い。	副業をはじめる 副業できる企業		
51	4	産業	海で遊ぶ暮らし 	市内外からたくさんの人が訪れ、釣り、海水浴、シーカヤックやSUP、海辺でのバーベキューなど、海での遊びを楽しむ。海辺が活性化するにつれ、多くの雇用も生まれた。	海で遊ぶ 海辺で働く 遊べる海辺の整備	①港湾利活用促進事業 ②観光物産協会助成事業 ③しおがま「何でも」体感団（カヌー体験）	①産業建設部商工観光課 ②産業建設部商工観光課 ③教育部生涯学習課
52	4	産業	牡蠣殻を用いた商品を生産する暮らし 	牡蠣殻を活用して建築資材や土壌改良剤を作る事業が地場産業として発展し、雇用を生んだ。市内の農地では牡蠣殻の土壌改良剤が普及し、おいしい野菜がとれるようになった。	牡蠣殻を原料に工業製品を作る 牡蠣殻を農業に活用する		
53	4	産業	地元産食材を用いて「作って食べる」を楽しむ暮らし 	日常的に料理をする人が多くなり、地元食材に対する関心が高まった。牡蠣やホヤの殻をむく、めかぶを湯通しして刻むなどの下処理は、小さい頃から経験する機会が多く、誰もが自分で行える。	料理をする 牡蠣の殻むきを練習する 家族で食べる	がまっこお魚研究室「カキ編」	産業建設部水産振興課
54	5	交流	鹽竈神社からの風景を眺める暮らし 	気分転換に、鹽竈神社から千賀の浦（塩釜湾）の風景を眺める。神社にはほかにも、鹽竈神社博物館屋上からの風景や表参道を見上げる構図など、市民に人気の景観がある。	景色を眺めに神社に行く 眺望景観の保全・ルール遵守 神社の景観保全	観光プロモーション事業	産業建設部商工観光課
55	5	交流	初デートで本町を歩く暮らし 	初めてのデートで本町を歩き、少し背伸びをしてシックなカフェでケーキを食べる。初々しい2人をカフェ店主も町の人もあたたかく見守っている。次のデートでは浦戸に行く約束をする。	本町でデートする 街並みの美化・整備	門前町活性化事業	産業建設部商工観光課

56	5	交流	門前町の風情を感じる暮らし 	鹽竈神社周辺では古い建物が店舗などとして活用され、門前町の風情がたどよう街並みが形成されている。御釜神社や道端のベンチには談笑する人の姿が見られる。	古い建物の歴史的価値を整理、発信 街並みのルールづくり、運用 観光ガイドの育成 保存・活用に関わる主体への補助	門前町活性化事業	産業建設部商工観光課
57	5	交流	「食」をテーマにした 祭りで近隣市町と交流する暮らし 	年に数回、魚市場や仲卸市場、神社周辺などで食をテーマにした祭りが開かれる。近隣市町でとれた野菜や米、果物などの作物や、各地域の名物料理が集まり、広域的な交流の場となる。	祭りで市内外の地場食材を食べる、買う 近隣市町との官民の交流を強化		
58	5	交流	船で行われるパーティーに参加する暮らし 	松島湾を遊覧する船上でパーティーが催される。参加者は景色を眺めつつ、海産物やお酒など塩竈の味を楽しみながら会話を弾ませる。仕事や恋愛のパートナーに出会う人も多い。	船上パーティーを催行 船上パーティーに参加	婚活支援事業	総務部政策課
59	5	交流	岸壁でのんびり 釣りをしながら海を眺める暮らし 	天気の良い日は岸壁で釣りをする人の姿が多い。釣った魚は料理して食べる。釣れなくても、穏やかな海をのんびり眺めれば最高のリフレッシュになる。	釣りに行く 釣り可能な岸壁を拡大 海を眺める		
60	5	交流	地域の魅力を撮影して発信する暮らし 	市内在住のカメラマンが地域の祭りや名所、特産品、話題の料理やスイーツなどを撮影し、市内外に発信している。地域の魅力を撮影した写真のコンテストも毎年開催されている。	地域の魅力を撮影する 写真コンテストを開催	塩竈の魅力発信事業	総務部秘書広報課
61	5	交流	オシャレして街に出かける暮らし 	年齢を問わずおしゃれを楽しむ人が多く、みんな自信に満ちた姿でカッコよく歩く。学生の間にはデートの服装を祖母に選んでもらうとうまくいくという都市伝説が生まれた。	おしゃれを楽しむ 選び抜いた品物が並ぶセレクトショップがある		
62	5	交流	子どもたちが塩竈の魅力に人に伝える暮らし 	塩竈の歴史・文化に関心を持って勉強会などで学ぶ市民が多く、子どもたちも学校や地域で町の魅力を知り人に伝える学習活動をしている。観光ガイドのボランティアに参加する中高生が多い。	塩竈の歴史・文化を学ぶ 人に伝える訓練をする ボランティア事業の推進	ジュニアリーダー育成事業	教育部生涯学習課

63	5	交流	子どもたちが外国人と交流する暮らし 	子どもたちにとって言語や生活様式の異なる人が身近にいることは当たり前のこととなった。日常的な交流を通し、互いの文化を尊重して受け入れる姿勢が自然に身についている。	外国人の移住を支援 学校で異文化を学習 外国人とコミュニケーション	①国際交流事業 ②外国語指導助手招致事業 ③小中学校総合的学習推進事業	①総務部政策課 ②教育部学校教育課 ③教育部学校教育課
64	5	交流	地域に花を植えて交流する暮らし 	子どもたちが学校の授業で種をまいて苗をつくり、地域のシニア世代と協力して歩道のプランターや公園の花壇に植えた。作業を通して世代を超えた交流が生まれている。毎年、四季の花が地域を彩る。	地域住民が子供たちに教える プランターに花を植える 花壇の整備	緑と憩い再生事業	産業建設部土木課
65	6	文化	地域のサークル活動で生きがいを感じる暮らし 	各町内会では俳句、写真、植物、ソフトボールなどさまざまなサークルが活発に活動していて、住民の生きがいになるとともに、地域内外の住民同士の交流の場になっている。	町内会活動 サークル活動への参加	社会教育関係団体の認定	教育部生涯学習課
66	6	文化	鹽電神社に見守られながら、鹽電神社を見守る暮らし 	多くの市民が常に鹽電神社の加護を感じ、初詣、結婚、七五三、合格祈願などの節目には挨拶に訪れる。神社の営みや環境を維持するも市民の力によるところが大きい。	景色を眺めに神社に行く 眺望景観の保全ルールへの遵守 神社の景観保全	文化財保護補助事業（鹽電神社防災施設整備）	教育部生涯学習課
67	6	文化	鹽電神社の桜を愛でる暮らし 	鹽電神社で、国の天然記念物・シオガマザクラをはじめさまざまな種類の桜を鑑賞する。花見の後に境内の茶店で団子を食べるのは王道。花見の前に食べるのは多数派。	神社の桜の種類を覚える 茶店の協力 神社の桜の保全	文化財保護管理指導事業（文化財バトロール）	教育部生涯学習課
68	6	文化	退職後、学校に通って学び直す暮らし 	地域の小中学校で、教養を深めたい人や資格取得を目指す大人のための講座が開かれ、多くの中高年が通う。子どもたちと一緒に学び、交流できる講座もある。	いつでも学び直す 講座の開催		
69	6	文化	音楽イベントに出演する暮らし 	「GAMA ROCK FES」は秋の音楽イベントとして定着した。ほかにも駅前広場や市内のホールなどで音楽イベントが毎月のように開催され、多くの市民が出演者や観客として楽しむ。	楽器や歌に挑戦する イベントを開催しやすい環境整備 イベントに出演する		

70	6	文化	自分の作品が町に展示される暮らし 	市内で活動するアーティストやアートを学ぶ学生の作品が、公共施設、公園、道路などに展示されている。ところどころに有名作家の作品も置かれ、町全体が美術館のようになった。	絵や彫刻に挑戦する 公共の場に作品を展示	塩竈市美術展	教育部生涯学習課
71	6	文化	松尾芭蕉の足跡をたどる暮らし 	松尾芭蕉が歩いた道を散策するウォーキングツアーに参加する。インストラクターによる解説を聞きながら歩くことで、多賀城・松島など周辺地域との文化的つながりを感じられる。	地域を歩く サークル活動の支援	日本遺産「“伊達”な文化」魅力発信推進事業	教育部生涯学習課
72	6	文化	街角のライブ パフォーマンスに足を止める暮らし 	駅前広場や公園などでは歌や楽器演奏、大道芸などのパフォーマンスが日常的に繰り広げられ、街に笑顔と活気をもたらす。塩竈のストリートは多くの有名アーティストを輩出した。	路上でパフォーマンスする 路上パフォーマンスの規制撤廃		
73	6	文化	土地の文化をアートで表現する暮らし 	地域に根付いてきた生業や暮らしを掘り下げ、絵画作品や楽曲で表現し続けるアーティストがいる。作品は地域住民らにとって、土地の文化を捉え直す機会となる。	地域で活動するアーティストの作品を鑑賞する 作家活動の支援	アートプロジェクト事業	教育部生涯学習課
74	6	文化	古今東西のアート作品に触れる暮らし 	美術館やギャラリーでは国内外の有名作家や地元の若手などさまざまな芸術家の作品に触れることができる。劇場では演劇や人形劇、神楽などが頻繁に上演され、舞台アートの世界を楽しめる。	アート作品・表現を鑑賞する 作品展示活動に対する支援 専門家の解説を聞く 劇場をつくる	美術館運営事業	教育部生涯学習課
75	6	文化	趣味・特技を発表し合う暮らし 	市の芸術文化祭や町内会単位の展覧会、発表会など、活動の成果を発表する場が多くある。人に見られるという刺激は、活動を続ける上での意欲につながる。	趣味・特技に熱中する 発表の場を設ける	しおがま 何でも“体感団”（神楽体験）	教育部生涯学習課
76	6	文化	活気に満ちあふれた 塩竈の様子を後世に伝える暮らし 	江戸時代に仙台藩の庇護を受け門前町や花街、流通拠点として賑わった歴史は郷土史家らによって詳らかになり、書物や芸術作品として残され、地域住民らにも知られるようになった。	地域の歴史を研究する 書物や芸術作品で表現する	ふるさと学習副読本事業 「塩竈の歴史」 文化財保護補助事業（塩竈神楽）	教育部生涯学習課

77	6	文化	点在する「新旧ランドマーク」に親しむ暮らし 	寺社、碑、老舗などの歴史的な建造物と、番番館やエスプのような近代的で機能的な建物が調和した街並みは、古いものと新しいものを柔軟に取り入れるこの町の文化を象徴している。	古い建物にまつわる歴史を学ぶ 景観を重視した都市計画	塩電学まちづくり学習事業	教育部生涯学習課
78	6	文化	道や橋を名前ではよぶ暮らし 	市内の多くの道や歩道橋には「中藤通り」「楓坂」「かっぱ橋」など地域住民がつけた名前がある。住民どうしの会話で愛着をもって用いられるうちに、行政上の名称としても定着した。	身近な道や橋の名前を考える 各地区で道の名前を決める事業を実施		
79	6	文化	文化財を舞台に文化を紡ぐ暮らし 	勝面楼、旧えびや旅館、杉村惇美術館など、地域の歴史を物語る建築物は市民の手によって大切に保存されている。人々が学び、交流する場として活用され、新たな文化が紡がれている。	文化財について学ぶ 古い建築物の保存・活用法の検討	①塩電学まちづくり学習事業 ②塩電市文化財保存活用地域計画作成事業 ③Web博物館事業「文化の港シオーモ」	教育部生涯学習課
80	6	文化	ストリートでダンスの技を磨き合う暮らし 	市内の路上ではさまざまなレベルのダンサーがパフォーマンスや練習をする姿が見られる。互いに技を見せ合ったり経験者が初心者にアドバイスしたりするなど、ダンサーどうしの交流もさかん。	屋外でダンスの練習をする ダンス可能な場所の確保		
81	6	文化	近所のミニシアターで気軽に名画を楽しむ暮らし 	小規模な映画館が点在し、気軽に映画を楽しめる。名画座、自主制作映画専門、ドキュメンタリー専門など館によってコンセプトが異なり、大手シアターでは扱われない作品が上映されることが多い。	映画を鑑賞する 映画を上映する	遊ホール協会事業	教育部生涯学習課
82	6	文化	図書館で読書会に参加する暮らし 	図書館で司書の助言を受けながらさまざまな書物に触れ、思考を深める。時々開催される読書会に参加すると、他者の視点を感じたり新たな分野の面白さに気づいたり刺激の経験ができる。	図書館を積極的に利用する 子供たちの読書を奨励 図書館で司書と話す	①市民図書館運営事業 ②第3次子供読書推進計画	教育部生涯学習課
83	7	協働	初詣やお祭りの日に屋台で食べ歩く暮らし 	大晦日・元日や、神社の祭りの日には、裏坂周辺に並ぶ食品や遊戯などの屋台でお祝い・お祭り気分を満喫。一帯は親子連れや仲間と集まった小中高生らで賑わっている。	家族・友達と祭りに出かける 地元商店や有志グループが出店		

84	7	協働	地域みんなで たるみこしを作り、町内へ繰り出す暮らし 	ある地区では毎年、地域住民が集まってたるみこしを作る。作り方はシニア世代から若者、子供たちへ受け継がれていく。ほかの地区でも、それぞれに、多世代が交流できるさまざまな慣習が根付いている。	地域住民が同じことに取り組む 町内会活動の活性化	①協働推進室・マリンプラザ運営事業 ②協働まちづくり提案事業	市民生活部市民課
85	7	協働	地域誌・ミニコミ紙で 地域の情報を得られる暮らし 	地域の個人や団体が発行する小メディアから、地域の情報を得る。投稿など紙面（誌面）上への読者参加も活発で、地域メディアが文化交流の場となっている。	地域紙誌発行者の活躍 配布手段の確保	協働推進室・マリンプラザ 運営事業	市民生活部市民課
86	7	協働	みんなが休む日がある暮らし 	地域の商店がすべて休みの日があり、誰もがのんびり暮らす。地域の祭りやイベントは休みの日に開催され、店主や地域の子供たちが参加して賑やかになる。	祭りやイベントへの参加 各地域の企画に対するサポート体制	①協働まちづくり提案事業 ②コミュニティ強化支援事業	市民生活部市民課
87	7	協働	町内会や小さなコミュニティに参加する暮らし 	市内のどの地区でも住民どうしの交流がさかん。地域活動においては子どもたち、親世代、高齢者がそれぞれの役割を果たし、和やかで暮らしやすい地域づくりに貢献している。	地域活動を活発に行う 町内会活動の支援	①協働まちづくり提案事業 ②コミュニティ助成事業 ③コミュニティ強化支援事業	市民生活部市民課
88	7	協働	バスで行く「清掃ツアー」に参加する暮らし 	市内の観光スポットや公園などをバスで巡って清掃するボランティア活動が盛ん。実際にはゴミはあまりないが、参加者にとっては健康増進だけでなく地域の魅力の再発見につながる。	ボランティア活動に参加する バスの手配、募集体制の確立 地域の魅力を感じる		
89	7	協働	経験を生かして 「ちょこボラ」で活躍する暮らし 	個々の経験や特技を生かせることから誰でもできることまで、ボランティアに参加できる場面が豊富にある。誰しも、地域の役に立っていると思えると暮らしに張り合いが出る。	公園の清掃や観光ガイドのボランティアに参加 ボランティアの活用		
90	7	協働	まちの未来を語り合う暮らし 	高齢者と若者が一緒になって理想のまちづくりを語り合う場がある。誰もが「地域の子供たちにどんな塩を残すのか」を真剣に考え、意見を交わす。議論の内容は市政に生かされる。	まちの未来を語り合う 市政への反映方法を検討		

91	7	協働	かまぼこ作りを通して 魚や水産業について学ぶ暮らし 	小中学校では魚を釣ってかまぼこを作る体験学習が定番。漁師や水産加工業者、研究施設の職員らが講師となり、魚のさばき方、調理法のほか、海洋環境や水産資源の現状について学ぶ。	釣った魚をさばいてかまぼこを作る 漁師や地元業者、研究施設と学校の連携		
92	7	協働	ムスリムの友人とレストランで食事する暮らし 	市内には多くの外国人が住んでいるため、多くの飲食店が、さまざまな宗教や食文化に対応したメニューを用意している。アレルギーのある人でも食べられる料理を提供する店も多い。	外国人と一緒に食事をする 異文化理解教育の推進	国際交流事業	総務部政策課
93	7	協働	大人と中高生が 同じテーマで意見を交わし合う暮らし 	カフェやコミュニティスペースでトークイベントが開催される。毎回テーマを決め、大人も中高生もそれぞれの視点で考えを述べ合う。会場は和やかな雰囲気、イベント終了後は雑談に花が咲く。	トークイベントに参加する 大人と中高生が対話する	塩釜高校との意見交換会	総務部政策課
94	8	浦戸諸島	浦戸に住んで漁師を目指す暮らし 	漁師を志す人が浦戸に長期滞在しながら漁師の指導を受け、技術の習得と独立を目指す。その活動を支援するしくみがあり、地元漁師も後継者育成のために協力を惜しまない。	漁師を目指して学ぶ 宿泊施設の整備 漁師の技術を伝承する仕組みづくり 就業サポート体制の整備	浦戸再生プロジェクト推進事業	総務部政策課
95	8	浦戸諸島	浦戸で農作物を収穫できる暮らし 	島に農地を借りて好きな野菜を植え、週末には草取りや水やりに行く。収穫の楽しみを味わえるだけでなく、屋外での作業で体力がついた。松林ではマツタケも取れる。	市民農園の整備 松林の整備、利用ルールの整理	浦戸再生プロジェクト推進事業	総務部政策課
96	8	浦戸諸島	浦戸の菜の花を活かす暮らし 	浦戸に広がる菜の花畑はウォーキングコースとして人気。島のカフェでは菜の花のハチミツを使ったスイーツや菜の花の漬物を味わえる。春に島の民宿に泊まると食事は菜の花づくし。	菜の花畑を歩く 農地拡大のための規制緩和 菜の花を栽培	浦戸再生プロジェクト推進事業	総務部政策課
97	8	浦戸諸島	浦戸で働きながら余暇を楽しむ暮らし 	浦戸に宿泊しながらパソコンで仕事。仲間との打ち合わせや営業先との交渉もオンラインでできる。仙台や東京からワーケーションで来ている人も多い。	空き家の改修補助 浦戸のインターネット環境の整備	浦戸再生プロジェクト推進事業	総務部政策課

98	8	浦戸諸島	船が身近にある暮らし 	浦戸や松島、宮戸島などへの移動手段として、日常的に船を利用する。松島湾には多くの釣り船が浮かぶ。小型船のシェアリングがさかんになり、自分で操船する人も増えた。	船で出かける 船で釣りに行く 宮戸島- 朴島間の渡船を整備	①浦戸再生プロジェクト推進事業 ②離島航路事業	①総務部政策課 ②市民生活部浦戸振興課
99	8	浦戸諸島	浦戸で休日過ごす暮らし 	休日は浦戸の島を訪れ、ツバキの遊歩道や菜の花畑を歩き、丘の上から海を眺める。お昼は島の民宿や食堂で海苔や牡蠣やシラウオなどを使った料理を食べる。宿泊して島を堪能する人も多い。	気軽に船で浦戸に行く 浦戸産食材を浦戸で食べる	①浦戸再生プロジェクト推進事業 ②うらと子どもバスポート事業 ③ジュニアリーダー育成事業	①総務部政策課 ②市民生活部浦戸振興課 ③教育部生涯学習課
100	8	浦戸諸島	浦戸で白菜を育てる暮らし 	浦戸の住民が浦戸産の種から育てる白菜は「浦戸白菜」として仙台白菜とは別の新たなブランドになった。市内の子どもたちが畑に通って栽培、採種を体験し、収穫した白菜は給食で味わう。	浦戸で白菜を育てる 商品化・ブランド化の支援 浦戸の白菜のタネの管理 流通・販売の支援	①浦戸再生プロジェクト推進事業 ②白菜事業	①総務部政策課 ②産業建設部水産振興課